

令和6年度 第1回丹波市中小企業・小規模企業振興協議会会議録（要旨）

開催日時： 令和6年6月11日（火曜日） 10：00～11：45

開催場所： 丹波市商工会館 2階 会議室

出席者委員： 丹波市商工会 会長 篠倉 庸良

（敬称略） 丹波市工業会 会長 芦田 基

中兵庫信用金庫 本店営業部副部長 荻野 博久

丹波ひかみ農業協同組合 総務部企画課次長兼課長 代理 徳岡 憲一

柏原公共職業安定所 所長 砂川 雅城

丹波県民局 県民躍動室たんば共創参事 宇瀧 広子

（敬称略）

事務局： 丹波市産業経済部 部長 北野 壽彦

商工振興課次長兼課長 高見 英孝

商工振興課企業誘致係長 多田 健剛

商工振興課商工振興係長 本庄 ななみ

農林振興課農業振興係長 百木 稔

観光課観光振興係長 藤原 宏康

商工会： 丹波市商工会局長 四方 啓介

議題

（1）令和5年度、6年度の中小企業・小規模企業の支援策について

（2）令和6年度の中小企業・小規模企業の支援策について

・丹波市特産物の統合ブランド名の立ち上げについて

・大阪・関西万博とその先を見据えた丹波市の観光振興事業について

（3）その他

1 開会あいさつ（商工振興課長）

2. 委員・事務局紹介

3. 会長選出

委員の互選により、丹波市商工会 会長 篠倉庸良氏を会長に選任

会長あいさつ（篠倉会長）

4. 議題

協議内容（要旨）

（1）令和5年度、6年度の中小企業・小規模企業の支援策について

資料説明：事務局

事務局

商工会の事務局長より、今現在の市内の傾向、Bizステーションの状況についても、説明をいただきたいと思います。

商工会

丹波市商工会が四半期に一度、業種は建設業、製造業、卸小売・飲食宿泊サービスの4つの分類で100社に対して景気動向についてのアンケートをさせていただいております。

直近の四半期のアンケートの結果ですけれども、現状の問題点として、4つの業種とも原材料、仕入価格の上昇が一番の問題であると挙げられております。

続いて、熟練技術者の確保等、また従業員の確保が困難であることが多く挙げられています。

全体的な景況感としては、どの業種においても非常に厳しいところが見られます。特に建設業、製造業については、次の四半期に向けての落ち込みが予測されると回答されておられますし、卸小売、飲食サービスについては、あまり状況の推移がなく落ち込むことはないけれども良くなることもない、現状維持というような回答をいただいております。

具体的には、まず建設業につきましては、ゼロ金利の解除の影響や資材高騰により、新築住宅の着工件数が大幅に減少しているという感想をいただいております。

また働き方改革の推進で労働時間を短縮しなければならない中、受注が減っているということで、どうやって利益を確保していくかということも課題です。

製造業については、度重なる材料、資材の高騰で利益を圧迫しておりまして、一度は価格転嫁に踏み切ってさらに再値上げというのは非常にハードルが高いと言われております。

また、卸小売については、特にガソリンスタンドは非常に価格競争が厳しく、周りの状況を見ながらの価格決定に非常に苦慮されているというところで、売り上げとしては上がっても利益としては減少傾向で厳しい状況をお伺いしております。

他の業種と比べると不動産業については、比較的好調という印象を受けております。特にコロナ禍以降、移住者や市外からの問い合わせが増えておりまして、引き続き好調な状況です。土地の動きも良いですし、新築の物件が動かない中で、中古物件の引き合いが多く新しい物件をホームページに上げると内覧希望や問い合わせが来るという状況です。

続いてBizステーションたんばについては、丹波市と連携をしながら進めている事業でありまして、なかなか職員だけでは対応できない相談業務を2名の専門の先生にお世話になっておりまして、月4日間の個別相談に来ていただいております。

令和5年の実績で申しますと、2人の先生で8、90社の個別相談対応を行い、引き続いて何度も課題設定しながら来ていただきますので、延べの相談回数にすると200回近い相談対応をさせていただいております。

これは伴走支援の取り組みの中で、先生に投げて終わりということではなく、商工会の職員と先生と事業者が一緒になって、課題解決を行っております。例えば事業承継問題。2代目の

後継者が自分より年齢の大きい社員が多い中、自分が事業承継したらどのように会社を変えていったらよいのかというようなことを事業計画を作りながら、理想と現実のギャップを埋めるためにどういう課題があるのか、その課題を解決するためにどういうアクションプランをしていくのかを協議しています。

委員

弊社も Biz ステーションたんばの専門家相談を受けております。
今年は DX アドバイザーを派遣するという新たな取り組みをされますが、どのようなアドバイスを考えられているのかお聞きしたいと思います。

商工会

相談には中小企業診断士診断士協会からの専門家の派遣を考えており、相談内容をピックアップして、協会の中から、特にその業界に詳しい方をご紹介いただいて指導していこうと思っています。事業者には IT 導入による効率化を考えてみませんかという広い意味でのご提案が良いのか、どのような手法がよいのか悩んでおります。

こちらからのアプローチの仕方によって随分相談内容も変わってくると思います。DX という言葉を使ってしまうと、ハードルが高くなると感じてしまいます。

会長

金融機関にお尋ねします。融資の返済に行き詰まった事業者が増えていますか。

委員

正直もっと行き詰った事業者が出るとは思っていたのですが意外と少ないと思います。丹波市内では頑張っておられる企業が多いかなという印象です。

委員

融資を積極的に行っていませんが、返済が滞っているという話はあまり聞きません。

会長

現在 Biz ステーションたんばで、起業を目指す方の起業塾を開催していますね。

商工会

約 30 名の方に参加いただいておりますが、おそらく半分以上が市外から移住されて開業を考えられておられる方です。

農林振興課より

(2)「丹波市特産物の統合ブランド名の立ち上げについて」説明。

会長

最後の目的が農業者の所得アップという話をされていたと思いますが、数量×単価で、売り上げがあり、売り上げに連動しての利益が所得のアップというように考えられているのかなと感じたのですが、そうなった時にこのブランドによって価格を引き上げるのか、数量をふやすのかという問題になる。しかし数量を増やすのなら、農家はかなり忙しくなって、それで得した気分になるのかどうか、情調的価値というならば、そこで差別化して値段を上げるような方がよいと思うので、このように値段を上げるところまで考えられているのですか。

農林振興課

今ご質問をいただいた農業者の所得アップをどこまで狙うのかというところは、PR 戦略会議ではやはりその論点のところが、まだぼやっとしているところがありまして、実際農家が、直

接消費者とやりとりされてる方がおられたり、農協に出荷されている方もおられる。

今回のこの取り組みは、丹波市の特産物の知ってもらう機会を増やしていきたい、それを知ってもらうことで消費者が農産物を手に取ってもらうような機会をふやしていきたいということで、認知度を上げること重要視しておりまして、そのベースが上がることで、もともと兼ね備えていたブランドの認知度を底上げすることによって、販売量も増えてくるのではないかなと思っています。

委員

他の地域での成功事例があるのですか。

農林振興課

様々な手法がありまして、都道府県単位でされているのは熊本県があります。

兵庫県では兵庫県認証ブランドというノウハウを継承するようなやり方もあります。

来年の関西万博や今後のイベントの開催で、丹波市の農産物を知ってもらうための一つのツールとして野菜を出していきたいと思っておりますので、最終的には農家の所得が上がることを目指して進めていきます。

丹波市の農業には特徴があります。例えば、寒暖差の気候風土や環境に優しい有機農業の取り組みが丹波市は他の地域よりも歴史が古く、環境にやさしい農業で言うと、畜産業がすごく盛んで、そこから生まれた糞尿を循環させているのが丹波市の農業の特徴で、他とは十分差別化できています。

会長

認定基準は絞りすぎるとうまく回ってない事例をたくさん見てきたので、あくまでもハードルが低い方がよい。逆にハードルを低くすることでハードルを下げてしまうことになる。

それも重々承知の上ではありますが、基準については丹波市で作られているすべての野菜を対象にしたいというコンセプトがあるので、発信の方法を工夫されてどんどん発信してほしいと思います。

観光課

(2)「大阪・関西万博とその先を見据えた丹波市の観光振興事業について」説明。

委員

とても面白い企画であると思います。ターゲットについて、最初のページに書いてありますが「女性」にこだわらなくても最近は若い男性もスイーツに興味をもっているのかなと思うので、女性限定にしなくてもよいのかなと感じました。

観光課

当初は、やはり女性の方が男性よりも行動力がありますし食べ物に興味がある方が多いので、このように設定しておりましたが、男性の方もスイーツが好きな方もいらっしゃいますので、催事ごとにターゲットを変えていくことも可能ですし、今後検討させていただきたいと思っています。

委員

地元の中小企業、小規模事業者さんにメリットがありますか。

観光課

大阪関西万博を中心とした大阪市内のPRに全部の事業者が参画できるものではないので、特定の事業者を募ることはなりません。

また、周遊デジタルマップにつきましては、市外の方にも情報発信したいとお困りの事業者

もあったかと思います。登録していただく分については無料ですし、デジタルですので常に情報を更新できるメリットがあります。季節のイベントや期間限定でのイベントの情報も発信できます。市内業者にも利用促進することで市内の周遊促進に繋がると考えておりますので、メリットがあると考えております。

会長

入口は市のホームページからですか。色々なことが考えられますが、ホームページもありますし、ポスターや掲示板とか、各店舗にQRコードを設置するとかありますね。

委員

兵庫労働局の行政運営方針の中で、今年度の労働行政のコンセプトとしましては、賃金の引き上げ、適正労働者の処遇改善に対する支援を推進していくことになります。事業者に対して沢山助成金がありますが、今年度プッシュしている助成金としましては「キャリアアップ助成金」になります。社会保険の加入要件が緩和されましたので、それに対して年収の壁で労働時間を減らそうとされる方に対して、最大50万円まで補助するというものです。それから、「人材開発助成金」のリスキリング支援コースといいまして、DX化やカーボンニュートラル化を進めるにあたって、従業員に職業訓練を実施した場合に、中小企業で75%を補助するという助成金があります。このような助成金について、ハローワークから利用促進を進めています。

また、多様な人材の活躍促進ということで、丹波市では先日、みつみ福祉会が女性活躍推進の「えるぼし」を取得され、丹波市役所で認定交付式をさせていただきました。このような認定制度もどんどんハローワークで進めていきたいと思っております。障害者雇用の優良な中小企業に認定される「もにす認定」、それから、若者の採用育成に優良な中小企業に認定される「ユースエール」についても丹波市で認定交付式をさせていただきました。読売新聞、神戸新聞、サンテレビで放映いただきましたので、丹波市で働きやすい、優良な中小企業が多いということを宣伝していけたらと思います。

また、ハローワークでは毎月4社集めて合同会社説明会を開催しており、毎月テーマを変えて、6月は福祉関係の仕事で、みつみ福祉会さんもメリットを感じていただくために出させていただきました。このマンスリーイベントでは、1月には採用1名、2月には採用4名、4月には採用8名ということで、採用者も増えてきているので、このような取り組みを進めていきたいと思っております。

7月には製造業分野の就職面接会を予定しており、市内の中小企業の雇用確保に努めていきたいと考えておりますのでよろしくお願いします。

最近の人材確保について、何かいい手だてはないのかと投げかけたりする中で、現場の方から色々な声があって、やはり女性が活躍できる会社があればいいのではないかと思います。

また、車関連の福利厚生を会社側が設ければ人材の応募があるのではないかなという意見がありました。それは例えば、新規学卒者の方に運転免許の取得の補助をすとか、車の購入代の補助をすとかいう福利厚生をつけるというようなものです。地域柄、車が絶対必要であると思います。

会長

支援制度の周知が一番大事ですね。我々も商工会の巡回の中で説明するのですが、地域の金融機関も制度を広めていただきたいと思います。

委員

中小企業、小規模事業者は申請手続きが億劫に考えられている方が多いです。

委員

物価高騰対策支援金の交付件数は84件ですか。

事務局

予算額から見るとまだまだです。今回の申請状況を見ると小規模の方が非常に多い。

その手続きに関して億劫に考えておられる方があるのではということで商工会を通じて PR をしていただいて、随分申請が増えてきている状況ではあります。

非常にハードルが高いものだと考えておられる方もいらっしゃると思いますので、会長からもありましたように、金融機関では直接事業者と接する機会が多いので、その機会にご紹介いただければと思います。

委員

このような助成金や丹波市が地域振興のために取り組んでおられることが、よくわかりました。やはり対外的に PR が一番難しいと思います。

さきほどの資料の中でありました SNS の広告費用は結構かかると思うのですが。

観光課

現在プロポーザルで業者提案を進めていますが、そのプロポーザルの仕様の中でも、その広告費用の予算を計上しております。

効果検証については、SNS を見られて丹波市に来られたという動向がスマートフォンから確認できます。それと、兵庫県が観光動態調査を行っており、令和 5 年度と 6 年度、さらには、7 年度にどれだけ増えたか、入り込み客数を確認していきます。

事務局より 閉会のあいさつ